

外為短観レビュー 投資家のスタンスは「戻り売り」に

◆米ドル/円相場の下落を予測していた

2016年の米ドル/円相場は年始から軟調に推移し、2月に入ると2014年10月以来の米ドル安・円高水準となる110.950円まで下落する場面も見られた。なお、この時点で年始からの下落率は7%を超えた。こうした波乱含みの展開を、ミセス・ワタナベと呼ばれるFX個人投資家は1月の段階である程度予測していた模様だ。

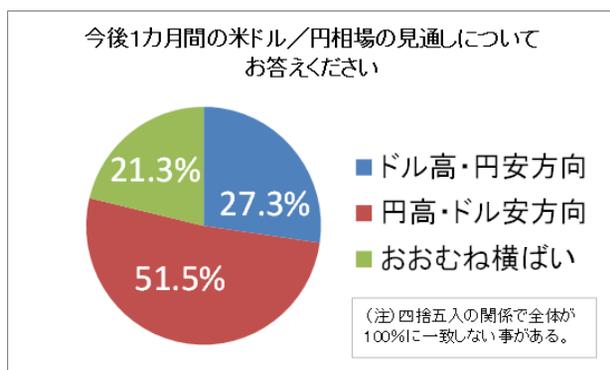
◆米ドル/円予想DIは31カ月ぶりのマイナスに

1月12日～19日にかけて外為どっとコムが行ったアンケート調査で「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」について尋ねたところ、「ドル高・円安」との回答割合が27.3%であったのに対し、「ドル安・円高」は51.5%に上った。また「おおむね横ばい」は21.3%であった。この結果、「ドル高・円安」予想から「ドル安・円高」予想の割合を引いた米ドル/円予想DIは▼24.2%ポイントと、31カ月ぶりにマイナス圏に落ち込んだ。ここまでは、第80回

外為短観にて報告済みだが、予想DIのマイナス幅は、過去6年半に及ぶ調査の中でも3番目の大きさであった。また、予想DIは米ドル/円相場が80円台で推移していた時期と同水準に落ち込んだ格好だ。まるで2月前半の急落を予見したかのように、1月時点でミセス・ワタナベの弱気度合いが高まっていた事を示している。

◆米ドル売り・円買いポジションが増加

また、こうした見通しに沿ってミセス・ワタナベは米ドル売り・円買いに動いた事もわかっている。外為どっとコムの顧客ポジションは、米ドル売り・円買い(ショート)の比率が年明け後に増加基調を辿り、日銀が当座預金金利の一部にマイナスを適用する「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を発表した1月29日には40%に迫った。それでも5割以上が米ドル買い・円売り(ロング)ポジションを保有しているとの指摘もあろうが、ロングポジションの中には、多少の相場変動には動じ



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

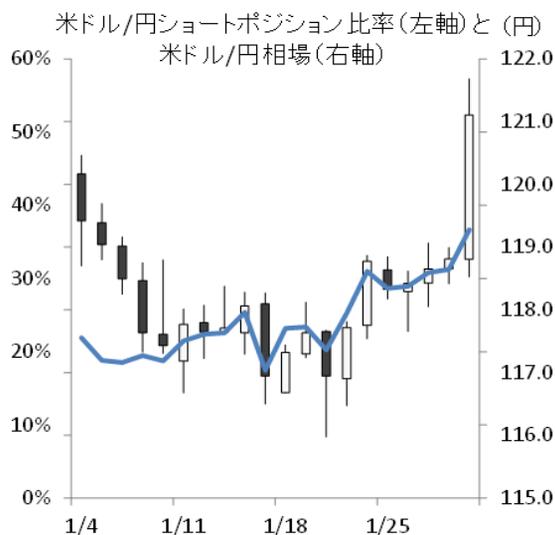
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ない長期保有を前提としたポジションが相当割合含まれていると考えれば、ショートポジションの比率4割は高水準と言えるだろう。

◆スタンス変化が重石に

こうしたショートポジションの多くが、その後の2月の急落局面で買い戻され、ショートの比率は20%以下まで低下した。その点からは、足元のミセス・ワタナベの米ドル売り・円買いは一巡したと言えるかもしれない。とはいえ当面は、従来のように米ドル/円相場の下支え役としての存在感を期待しづらくなったと考えるべきだろう。ミセス・ワタナベは「下がれば買う」の押し目買いを基本スタンスとする、米ドル/円相場のサポート役として認識されてきたが、そのスタンスを「上がれば売る」に変更したと考えられるためだ。今後は米ドル/

円相場の重石的存在となる可能性が高まったという事になる。もし、ミセス・ワタナベの米ドル弱気・円強気スタンスがこのまま定着すれば、円高・デフレの脅威を拭い切れない日本経済にとっても重石となりそうだ。(了)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com